

環 (あい)

師系の詩	1
環の出發にあたり	2
4月の注目句	4
琥珀集	6
瑠璃集	8
瑪瑙集	16
紅玉集	18
総合誌の窓	19
「ひさかたの」ってなに？	21
女性が天下を動かした奈良時代	22
偽史倭人伝	24

瓊（あい）の

出発にあたり

代表 塩路 隆子

「句会報」を改めまして四月号二十五号より「瓊」として出発いたします。

瓊とは美しい石のことです。私達一人ひとり
は宝石の原石なのです。

金剛石も磨かざれば玉の

光は沿わざらむ

人も学びてのちにこそ

まことの徳はあらわるれ（以下略）

昭憲皇太后のお歌です。学び磨きますと、一人ひとり
は素晴らしい光り輝く宝石になるでしょう。私達は俳句を志して日夜努力をいたして
おります。学ぶことによって、自分を珠玉

に、また俳句という珠玉を手にするからこそが
願いなのです。今の世に井戸から若水を汲むご
家庭は殆んどありません。しかし失ってはなら
ないものは「若水を汲むころ」です。それが
俳句の心なのです。いい仲間にも恵まれいい環
境に自分を置き、自然を愛して止まなかった芭
蕉の心に返って句を作りましょう。吟行も試み
ましょう。

今月号より、応募されました作品を琥珀集（七
句）瑠璃集（五句・四句集）瑪瑙集（三句・二
句集）紅玉集（小学生）に分類して纏めました。
皆様のお句を大切に掲載してゆきたいと考えて
います。

手を携えて春の大地にしつかりと第一歩を踏
み出しましょう。くじけそうになった人たちへ
は温かい手を差し伸べましょう。

ほら！春の雲もちっちゃな犬ふぐりも総てが
祝福してくれています。がんばりましょう。

早春の詩

塩路隆子

卒業歌流るる故山威を正し
重たげな煙這ひをり春田打
地震の夜や蛤高く潮を吹き
島端に椿鏤め海女の墓
嫁ぐ子へこまごま伝へ雛料理
金縷梅や読上げ算のをんな声
涅槃図に居ずまひ正す佛学徒

四月号の注目句

雪霏々のとぼりを幾重孤独感
入相の殷々こもる牡丹雪
日脚伸ぶ雲の百態飽きもせず
寒析のひびく静寂や月明り
荒れし手に保湿クリーム大晦日
ふるさとの湖やひねもす浮寝鳥
親父にはなかりし余生なづな粥
初乗りは晴着のをんな運転手
風硬しひかりは春を装へど
初不動法螺白銀の峰渡る
春シヨール粹に銀座のメトロ駅
水仙の凜と亡き夫偲ばせる
春光や名馬二世の誕生し

小澤 菜美
北尾 章郎
竹内 悦子
増田 一代
朝熊 精子
池田加寿子
五野 延喜
小林 成子
坂上 香菜
笹井 康夫
鈴木 照子
杉本 綾
田下 宮子

塩路 隆子選

哲学の道閑散と冬椿

帰国せし子と交しけり爛の酒

一枝の品格床の梅白き

無口なる太公望の冬帽子

パテシエのチョコに行列二月来る

時計塔に文字の煌き寒月夜

春を待つ豆と鬼面を買ひ戻り

初春の大豊神の狛ねずみ

雪燈籠あまたゆらぎし里の宿

雪折の弾け嵯峨野にこだまかな

旅に出る風呂吹き大根煮含めて

山の端の星の煌き風冴えて

ひと鉄ずつの思案や松手入

絹の香や母の形見のちゃんちゃんこ

ろうばいのあまいにおいがたまらない
おおぞらにふわふわうかぶかなのたこ

中川すみ子

難波篤直

前川ユキ子

三川美代子

森下康子

吉田晴子

和田郁子

飯田美千子

田中浅子

高谷栄一

森永洋子

稲田和子

秦和子

山下潤子

広瀬結麻
中森かな